



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

工夫を凝らし おたすけを

求められる「相手を見据えたにをいがけ」

7月に「全教一斉にをいがけデー」の中止が発表されたが、たすけを求める方へのにをいがけ・おたすけは継続していかなければならない。そのためには、ようぼく一人ひとりがおたすけの在り方を考え、工夫をしていくことが求められる。

この9月は、例年なら「にをいがけ強調の月」として、全国各地で戸別訪問や路傍講演、神名流しなどの布教活発が活発に展開されるはずだった。

しかし一斉活動としての「にをいがけデー」は中止すると発表されるなど、今まで通りのやり方での布教活動が難しくなってきた。

い。今までのような活動を行うのが難しい今の世相ではあるが、世の中にはたすけを必要とする方が大勢おられ、今現在も、多くの教友がにをいがけやおたすけに励んでいる。

本部からも、人を見た布教、この人ににをいをかけようという、相手を見据え

たにをいがけが提案されている。身近な方へのにをいがけ・おたすけを継続していききたいものである。

私たち本愛ようぼくも、活動目標の中に「おたすけの日々」を掲げて、来年の奉告祭に向けて活動を進めている最中である。一人ひとりが今どういった方法でおたすけをすることができののかを考え、工夫して実践していくことが求められている。

大きな事情をお見せいただいている今だからこそ、ようぼく一人ひとりが親神様の思召にお応えさせていただけるような通り方を目指していきたい。

第952期 修養科生大募集

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

《面接》 ☆日時：9月25日 午後1時

☆場所：本愛詰所

9月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

9月のこよみ

入 社 祭	1日 午前10時	祭典後 秋季霊祭
よふき会例会	2日 午前10時	
月 次 祭	13日 午前10時	
青年会例会	13日 午前10時	
布教実修所	14日 午前9時30分	
むつみ会例会	16日 午前10時	
こはる会例会	19日 午前10時	
婦人会例会	20日 午前10時	
修養科志願者面接	25日 午後1時	(於 本愛詰所)
本 部 月 次 祭	26日 午前9時	

寄稿

海外教友のいま

本愛慶心教会

本愛につながる海外教会からの、現在の状況とこれまでの取り組みについての寄稿。今回は本愛慶心教会から台湾の様子を伝えてもらう。

今年の本部春季大祭に参拝させていただいた後、私が台湾に帰国したのは、感染が広がり、入国者に対する隔離政策が実施されたのとほぼ同じタイミングでした。

台湾では、政府がマスクを全て買い占めることで個人のまとめ買いを防ぎ、所定の薬局や市役所でだけ購入できるような体制が取られました。

ITが発達しているため、マスクの在庫がどこにあるかもアプリで伝えられるので、購入時の行列などもかなり分散されています。アプリでは、感染者があった場合、同じ場所にい



佐藤悟会長(右)と黄意萍夫人(本愛慶心教会で)

た人全員を把握できるようになっており、外出禁止期間中も、自宅から数十メートル離れると、警察から「自宅から離れすぎているので、すぐに帰宅するように」という警告の通知が届くようになっていきます。

台湾では、2013年に発生した新型肺炎「SAR

S」で大きな被害を受けており、そのときの経験のおかげで国民全体の危機感も高かったように思います。国民全体で、政府の対策に協力していました。

その結果、8月までの台湾における感染者数は計47人で、本土での感染者は50日連続でゼロ人でした。そのため5月から7月にかけては普段の生活に戻ったように感じていました。ただ、陽性反応があった日本人男性が入国したことがきっかけで、現在では再度台湾全土でマスク着用が強化され、入国制限もさらに厳しくなっています。

伝道庁の月次祭でもマスク着用の指示が政府から出されており、おつとめ奉仕者と参拝者は、上段以外ではマスク着用が義務付けられています。

私は、今回の状況を受けて、親神様が人類の心の入れ替えを急ぎ込まれている

ように強く感じます。私自身、普段からおつとめに心を込めていましたが、それ以外の時間はいつも通りの心遣いで生活してました。

果たして、これで神様は喜んで受け取ってくださるのだろうか。やはり、祈りの先にあるものが大事なのではないか——。そう感じ、「台湾にいるからこそできることをしよう」との思いで日本に物資を送ることに決めました。恵まれた環境にいるわけではないかもしれませんが、日本でマスクが不足している状況などを見て、「教祖ならどうなさるか」と考え、信者さんや知り合いに声を掛けたところ、多くの寄付や物資が集まりました。

ようぼくの基本は、やはり「人たすけ」だと思います。自分がどんな状況であつても「人の役に立つこと」。これが、親神様が一

番お喜びになることだと信じて、日々歩いていきたいと思えます。

(佐藤悟・本愛慶心教会長)

改修計画打ち出される

奉告祭に向け

大教会は先ごろ、神殿1階のトイレなどの改修計画を打ち出した。

これは、来年6月の六代会長就任奉告祭に向けたもの。大教会の神殿1階トイレは、これまで数度にわたって便器の取り換えなどが行われてきたが、配管などは建築当初のもので、段差なども多い。そのため、バリアフリーの観点から、トイレとその周辺の段差をできる限り無くした上で、個室を広くするなど、誰にでも使いやすい形に改修される。

工事日などは未定だが、奉告祭までに工事は完了し、お披露目される予定。

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年の活動目標は、「喜びの旬 おたすけの日々 楽しみの道」と示されていますが、その根底には「ご恩報じの信仰」がなくてはならないことを忘れなようにしたいものです。

昨年までくり返し打ち出されてきた「ご恩報じの心」は、天理教の信仰の最も基本であります。初代会長様は、日々の歩みの中でご恩報じの信仰を培い、それを実践することが、自分の人生を良き方向へ進める種になると、生涯を通して説き続けられました。

ご恩報じの心は、言うまでもなく「喜び」が前提となるもので、「うれしい」「ありがたい」という喜びがなければ感謝やご恩報じの精神は生まれてきません。では喜びとはどういうものでしょうか。

自分の望んでいるものが入った時、また思うことが思うように運んだ時はたしかに喜びを感じるものです。しかしその喜びが長続きするかどうかというところではなく、すぐに慣れてしまうのが人間です。つまり何の努力もせずに、ある一定の状態を保ち続けることができないのが人の心と云えるのではないのでしょうか。

除。ある一日に集中して徹底的に大掃除をすれば、その時はきれいになり気分もスッキリするでしょう。しかしその後、掃除をしなれば、また以前の状態に戻るのには明らかです。人の心もこれと同じで、何の努力もしないでいると知らず知らずのうちに不平、不満、不足、愚痴などの「ほこり」の心使いが湧いて、かつての喜びが薄れていくのが人の常で、喜びを見つけ出すとする努力をいつもしていないとそれは保てないよ

うに思います。最も身近にある喜び、それは「かりもの」と教えられるこの身体にあります。特に意識しなくても呼吸ができる。物が食べられて栄

養が身に付く。そして食べる時の喜びだけでなく、必要な物を体外に排出して味わえる喜び。これも身近で味わえる大きな喜びの一つです。

他にも家族や子供たちの姿、仕事の業績、毎日の生活など、探せば喜びの元は身近なところにたくさん埋もれています。それを自分の努力で見つけ出し、大きく広げて喜びを増幅させていく。そうすれば不平や不満の心は自然と薄れていき、陽気ぐらしの心に近づいていくのであります。

■喜ぶ理は天に適う

教祖のお教えくださる陽気ぐらしは、ただ祈るだけで実現するものではありません。陽気ぐらしを招来するために最も肝心なことは一人ひとりの心の使い方にあります。「かりもの」の身体に埋もれている喜び、また祖父母や両親の代では

味わえなかった今日の結構さ。そこにある喜びを見出し、感謝と報恩の心を親神様に捧げていくことが、将来の新しい喜びを味わう種まきになると教祖はお教えくださいました。

おさしづのお言葉に、
：満足というものは、あちらでも喜ぶ、こちらでも喜ぶ。喜ぶ理は天の理に適う。適うから盛ん。
(明治33年7月14日)
とあります。

起きてくる出来事に喜びの要素を探し、謙虚で柔軟な心になつて喜ぼうと努力する。その誠実が親神様の思召に適つて、人間の力の及ばないところで不思議な働きを見せていただけるという意味です。そしてこの素晴らしい信仰の道を我が心だけに留めず、周囲の人や我が子・我が孫に伝えて、陽気ぐらしを目指す道を絶え間なく一歩ずつ歩んでいきましよう。

【第 69 回】

身上かりものの喜びを深め 陽気ぐらしへの道を一歩ずつ

第104回教会長資格検定

合格者

(令和2年7月18日付)

直轄 安藤 吉人
本徳 相原 知宏
以上2名

7月のおさづけの理拝戴者

直轄 伊藤 宏祥
本築 佐藤 徹郎
以上2名

7月の初席者

本桑名 服部 壮志
以上1名

天理教青年会総会
並びに道の後継者の集
いの中止について

新型コロナウイルスの感
染拡大防止などに鑑み、10
月に本部で予定されていた
天理教青年会総会と年内の
「おやさとふしん青年会ひ
のきしん隊」の受け入れは

中止となりました。

また、9月に大教会で予

定しております「道の後

継者の集い」も中止と致し
ます。

何卒ご理解を頂きますよ
う、よろしくお願い申し上
げます。

青年会本愛分会

本愛大教会 公式ホームページ開設!



<https://hon-ai.org>

大教会からのお知らせ
沿革、大教会へのアクセス
本愛誌バックナンバーのダウンロード

大教会日誌

令和2年7月25日～令和2年8月24日

7月

26日 本部月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

8月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・都築隆道、山神茂彦

指図方・板山公司 賛者・塚原光男、細川 明

◇おたすけ講話—中島裕信

◇教会長連絡会

青年会例会

2日 よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、中島功雄

指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、安井 篤

◇祭典講話—和光重男

◇大教会長挨拶

14日 布教実修所

15日 おはなし会

16日 むつみ会例会

女子青年例会

17日 こども食堂MOGU (参加者48人)

20日 婦人会例会

22日 こはる会例会